

[論 文]

「生徒指導」に対するイメージの変化

～「生徒指導論」受講前と受講後の比較～

Change of the Image for the Subject “Student Counseling”
Before and After Attending the Lectures

関 口 洋 美
Sekiguchi Hiromi

ABSTRACT

The present research aimed to clarify the change of the participants' images for the subject “Student Counseling” by attending the lecture. The researcher carried out questionnaire survey about participant's image for the student counseling before and after the lectures. In results, participants changed their image to the directions to be warmer and more positive. Furthermore, they changed the image to be positive not only for the student counseling but also for the instructor of the subject.

Key Words : Student Counseling, Image

はじめに

中学校の教育において、生徒指導はその中心をなしていると言える。もっとも心理的に安定していると言われる児童期とは大きく異なり、第二次性徴を迎え青年期に入る中学生は精神的にも不安定となり、指導は非常に難しい。また、親の関与が多かった児童期よりも自主性を求められることが多くなるため、生徒一人一人に目を配る教師の負担は大きい。そのため、教職希望者に対しても生徒指導について理解させることは重要である。また、理解を深めるだけでなく、実践力をつけていくことも必要なため、これらに着目した研究もなされている。

栢野ら(2011)は、1年次から「生徒指導」に関する指導を行い、3年次の教育実習の直前までに、生徒指導の概念と行動がどのように変動するかについて検討した。その結果、1年次は生徒指導を行うための準備として子どもの多様な状況と教師の対処方法を観察し、自分も模倣するという状況にあった。2年次では、子どもの信頼と影響力を得るために、様々なコミュニケーションを試み、その結果から生徒指導の概念を拡大しつつある状況であった。3年次では、直接子どもに接し、日常的な信頼関係を形成することが大切であることをとらえていた。本研究から、生徒指導を実践するためには理論だけでなく実践を取り入れることが大切であり、また生徒指導の方法を習得するためには時間を要する

ことがわかる。本研究の中で、「生徒指導は何も問題が起きないときには意識されない傾向が強く、現場でも意識の無いままに生徒指導が行われている」と指摘している。さらに、「その結果、学生の意識の中にも、生徒指導とは服装チェックや遅刻・欠席の指導をしたという印象しか残っていない」と続けている。したがって、生徒指導の実践力をつけることも重要であるが、それよりも先に「生徒指導」とは何かを理解させることが重要ではないだろうか。また、伊谷・杉村・藤田（1998）では、教育大学生がもつ生徒指導に対するイメージを測定しており、その結果「きびしい」「暗い」「辛い」「つらい」といったマイナスのイメージが強いことが明らかとなった。先にも述べたように、生徒指導は特に中学校での教育において中心をなすものであり、また生徒と教師とのあたたかい関係が望まれるものである。したがって、生徒指導に対してもっとプラスのイメージが持たれることが望まれる。おそらく、生徒指導に対して正しい理解を得られれば、印象やイメージが変化するものと考えられる。

そこで、本研究では生徒指導の授業により、その印象やイメージが変化するのかを明らかにすることを目的とする。本学教職課程受講者を対象とし、「生徒指導論」の授業前と授業後に印象の調査を行い、変化が現れるかを検証する。

方 法

被験者：平成27年度「生徒指導論」受講学生33名。

調査日：事前調査は平成27年4月16日「生徒指導論」初回授業において、事後調査は平成27年7月23日「生徒指導論」最終回において実施した。

調査項目：事前調査では、①生徒指導を色でたとえるなら？、②生徒指導をオノマトペで表現するなら？、③生徒指導する先生の印象は？、④生徒指導の思い出、以上の4項目について調査した。なお、事前調査では、中学校及び高等学校での生徒指導を思い出して回答してもらった。全て自由記述で回答を求めた。事後調査では、①～③は同じ質問をし、最後の質問だけ④生徒指導に対して今はどのように感じますか？という質問を課した。なお、事前調査と事後調査のデータを擦り合わせる関係で、記名式とした。

手続き：事前調査・事後調査とも、その場で回答を書かせ、回収した。

講義内容：「生徒指導論」の講義内容については、本講義のシラバスにおける目的・到達目標と各回の授業内容の部分を以下に示す。

表1：「生徒指導論」のシラバスの抜粋

授業の目的・到達目標	
学校教育において、どの時間にも関係してくるのが生徒指導である。生徒指導は、すべての生徒に行く、生徒の全生活における指導である。その範囲の広さゆえの難しさや、現代の生徒指導における問題について考える。	
到達目標	
①生徒指導について理解する	
②生徒理解の重要性とその方法について理解する	
③生徒を取り巻くさまざまな問題について理解する	
各回の授業内容	
第1回 生徒指導は何か	第9回 生徒たちの仲間関係を考える②
第2回 生徒指導の意義と課題	第10回 中学生を取り巻く現代社会の問題①
第3回 生徒指導の原理と方法	第11回 中学生を取り巻く現代社会の問題②
第4回 生徒指導と教育課程	第12回 生活指導
第5回 生徒指導と組織および指導体制	第13回 進路指導
第6回 個々の生徒を理解する①	第14回 体罰を考える
第7回 個々の生徒を理解する②	第15回 まとめ
第8回 生徒たちの仲間関係を考える①	

結 果

事前調査の結果

事前調査における①生徒指導を色でたとえるなら？の回答では、延べ11種類の色で表された。多かった順に、青（7人）、赤（6人）、黒・白（5人）、黄（3人）、オレンジ・グレー・水色（2人）、青紫・黄緑・紫（1人）となった（表2）。

表2：「生徒指導を色でたとえるなら」（事前調査）結果

色	人数	色	人数
青	7	オレンジ	2
赤	6	グレー	2
黒	5	水色	2
白	5	青紫	1
黄	3	黄緑	1
		紫	1

次に、②生徒指導をオノマトペで表現するなら？の回答では、延べ31種類のオノマトペで表現された。これらのオノマトペにおいて、回答が重なった語は少なく、ガミガミ・カンカン（3人）、キビキビ・バシバシ・バタバタ・ビシビシ（2人）だけであった。その

他の語はすべて1人ずつの回答であった(表3)。しかし、キチキチとキツキツ、ビシッとビシバシ、シャキッとシャキシヤキのようにニュアンスが似ているものも見受けられた。また、カチフワやスサーのような創作オノマトペ(一般的に使われているオノマトペでなく、その場で創作したと思われるオノマトペ)も見受けられた。

表3：「生徒指導をオノマトペで表現するなら」(事前調査)結果

オノマトペ	人数	オノマトペ	人数
ガミガミ	3	シュツ	1
カンカン	3	スサー	1
キビキビ	2	シャキッ	1
バシバシ	2	スパッスパッ	1
バタバタ	2	クルクル	1
ビシビシ	2	ドン	1
カキコカキコカク	1	トントン	1
ガチガチ	1	ザワザワ	1
カチツカチツ	1	ヌチャヌチャ	1
カチフワ	1	シャキシヤキ	1
ガリガリ	1	バンバン	1
キチキチ	1	ピシッ	1
キツキツ	1	ビシバシ	1
キリキリ	1	メラメラ	1
ゴチャゴチャ	1	リンリン	1
シャキシヤキ	1		

3つめの質問、③生徒指導する先生の印象は?の回答では、延べ25種類の印象が回答された。もっとも多かったのは“厳しい”で全体の約4割にあたる13人が回答していた。続いて、“怖い”(7人)、“体育教師”(3人)、“声大きい”(2人)までが複数の回答があった印象であり、他は1人だけの回答であった(表4)。

表4：「生徒指導する先生の印象」（事前調査）結果

先生の印象	人数
厳しい	13
怖い	7
体育教師	3
声大きい	2
有難い	1
威厳がある	1
うるさい	1
行動力がある	1
仕事している	1
情か	1
情熱的	1
生徒想い	1
生徒から好かれるかきられるかどちらかなイメージ	1
体育会系の怒鳴る人	1
大変そう	1
常に生徒と接しコミュニケーションをとっている	1
常に生徒を見ている	1
テキパキ	1
肉体派	1
熱血な人	1
人を尊重できる	1
ベテランの先生	1
まじめ	1
みけんにシワをよせているイメージ	1
良い先生	1

最後に、④生徒指導の思い出の回答においては、23人の学生が服装・頭髪検査や持ち物検査について触れていた。これらの記述を内容から良い思い出と悪い思い出に分類すると、良い思い出の内容は3人、悪い思い出の回答は12人であり、圧倒的に悪い思い出が多い。なお、18人の回答は事実だけの回答で、快・不快は読み取れなかった。良い思い出の回答では、生徒指導の教員に思いやりがあったり、親身になってくれたといった内容であった（表5）。なお、記述はローデータの表現を一部修正して掲載している。

表 5 : 「生徒指導」の思い出（良い思い出の回答例）

例 1 : 中学の頃の生徒指導の先生がとても熱く、生徒をわが子のかわいがって いて、叱るときには本気で叱ってくれた。生徒のためにそこまでできる先生は、今、少 なくなってる気がする。
例 2 : 朝、正門で服装チェックをされ、注意されたこともあったが、生徒指導の先生 はみんな優しくかった。
例 3 : 進路を決定するときに個別相談にのってもらった。なかなか決まらず、何回か 相談にのってもらい、芸文短大も先生が教えてくれた。

一方、悪い思い出の回答では、恐怖や不快感を伴うものや、ハラスメントととれる内容も
見受けられた。以下にその例を示すが、良い思い出の回答同様、ローデータの表現を一部
修正して掲載する（表 6）。

表 6 : 「生徒指導」の思い出（悪い思い出の回答例）

例 1 : 特に素行の悪い生徒は「プレハブ」と呼ばれる屋外のプレハブ小屋に連行され、 指導を受ける。
例 2 : 12月の寒い朝の校門で抜き打ちの服装指導があった。化粧などしていなかつ たが、「お前化粧してるだろ！」と言われ、「していません」と言っても、「嘘つくな！ じゃあ今ここで顔洗ってみせろ！」と言われた。校門近くの水道の水と手洗い用石鹸で 顔を洗った。当然顔は変わらず、それを確認した先生は、謝りもせず「ああ、もとから その顔か」と言った。とても傷ついた。
例 3 : 服装検査などの時に、男の先生は女子に甘く、男子には厳しく指導していて差 別を感じた。
例 4 : 軍隊みたいだった。先生が前に立ったら正座して礼をし、足を崩してもよいと いう言葉があるまでは正座のまま。集会のとき全クラスが集まるまで黙想。集会で先生 が話をしているときは、誰一人として話す者はいなかった。気をつけのときは、ふとも もをたたいて音を出さなければならなかった。
例 5 : 服装検査に1度でもひっかかると、もう話も聞いてくれなかった。

その他、学校で何か問題が生じると全校集会や学年集会が開かれ、全員が指導を受けたこ
とをあげている回答も複数あった。

事後調査の結果

事後調査における①生徒指導を色でたとえるなら？の回答では、延べ13種類の色で表
された。もっと回答が多かったのは青（7人）、続いて白（6人）、黄（5人）、オレンジ

(4人)、赤・黒(3人)、水色(2人)であり、紫・薄い青・紺・緑・虹色は1人ずつであった(表7)。

表7：「生徒指導を色でたとえるなら」(事後調査)結果

色	人数	色	人数
青	7	紫	1
白	6	薄い青	1
黄	5	紺	1
オレンジ	4	緑	1
赤	3	虹色	1
黒	3	薄いピンク	1
水色	2		

次に、②生徒指導をオノマトペで表現するなら?の回答では、延べ32種類のオノマトペで表現された。複数人の回答があったのは、ビシビシ(3人)、コツコツ・ビシバシッ(2人)の3語だけであった。他の29語は1人ずつの回答であった。事後調査においても、ピシとビシッ、パワーとホワッのようにニュアンスが似ているオノマトペが認められた。また、事前調査同様、スサァーという創作オノマトペが出現した(表8)。

表8：「生徒指導をオノマトペで表現するなら」(事後調査)結果

オノマトペ	人数	オノマトペ	人数
ビシビシ	3	シンシン	1
コツコツ	2	スイスイ	1
ビシバシッ	2	スクスク	1
カツカツ	1	スサァー	1
カラコロンカラコロン	1	セカセカ	1
ガンガン	1	ドロドロ	1
ギシギシ	1	トントン	1
キチキチ	1	ネチネチ	1
キビキビ	1	パシパシ	1
キラキラ	1	バタバタ	1
キリッ	1	ピカピカ	1
グイグイ	1	ピシ	1
グチャグチャ	1	ビシッ	1
コトコト	1	フワフワ	1
シャキーン	1	パワー	1
ジュワ	1	ホワッ	1

3つめの質問、③生徒指導する先生の印象は？の回答では、延べ29種類の印象が回答された。もっとも多かったのは事前調査同様“厳しい”であったが、5人に減少していた。“怖い”も5人で“厳しい”と同数であった。続いて、“生徒おもしろい”（3人）、“大変”（2人）が複数の回答があった印象であり、他は1人だけの回答であった（表9）。

表9：「生徒指導する先生の印象」（事後調査）結果

先生の印象	人数
厳しい	5
怖い	5
生徒おもしろい	3
大変	2
暖かい	1
頭使いそう	1
表では厳しく、裏では的確にアドバイス	1
かなり大変そう	1
きつめではあるがプライベートはやさしい	1
肝がどっしりとすわっている	1
苦労している	1
しっかりしている	1
情熱的	1
生徒に関心がある	1
そんなに悪くない	1
体格のいい男の先生	1
たくさん生徒のことを考えている	1
頼もしい	1
熱心	1
話を聞いてくれる	1
母親	1
真面目だけど楽しい人	1
導いてくれる	1
道を照らすような	1
みんなに気配りができる	1
優しい	1
優しく時に厳しい	1
優しさのこもったこわさ	1
冷静	1

最後に、④生徒指導に対して今はどのように感じますか？の回答については、13人の学生において印象が変わったという回答が得られた。いずれの回答においても、生徒指導の重要性や難しさがわかったといった良い印象への変化であった。以下に印象に残る回答をあげる（表10）。なお、事前調査の結果同様、ローデータの表現を一部修正して掲載する。

表10：「生徒指導に対して今はどのように感じるか」の回答例

例1： 「きびしく」というイメージから「柔軟に生徒に対応する」というイメージに変わった。まだまだ先生になるには知識不足だと感じた。
例2： 前はただ生徒を怒鳴りつけているだけだという印象だったが、今は怒鳴っているなかには生徒を想う優しさがあったのだと感じる。生徒指導の先生はいろいろなことを考えなきゃいけないのですごいと思った。
例3： 注意をするだけでなく、そこから生徒を救う、良い方向へ導くようなイメージ、生徒のことをしっかり理解してあげることが重要だと思った。
例4： 生徒が将来社会人として社会に出ていくにあたって困らないために基本的な社会性などを身に付けさせる指導だと思う。学校教育の中で最も大切な指導だと思う。
例5： 1人1人の良さをしっかりと見て、伸ばしてあげる（サポート）ところから教師という立場よりも母親のように感じます。

ただし、授業を受けて「生徒指導」に対する正しい理解はできたものの、過去の印象が強すぎて印象がよくなることはなかったという回答もあった。その回答は以下のようなものであった。

『中学の時の本当に怖い生徒指導の先生を忘れることができず、授業を受けても怖いイメージはあまり変わらない。しかし、先生は生徒のためを思って指導してくれていたんだなと思った。』

考 察

事前調査の結果から

事前調査の結果を見ると、色のイメージは、寒色である水色、暖色である赤、無彩色である白と黒と続いており、系統的な印象があるようには読み取れない。しかし、オノマトペの結果と生徒指導する教員の印象の結果とを合わせてみると、“恐怖”の印象が強いことが考えられる。オノマトペでは、ガミガミ・バシバシ・ビシビシといった厳しさを連想する語が多く見受けられた。また、生徒指導する教員の印象では、“厳しい”“怖い”“声大きい”など、叱られたもしくは怒られた状況を想起させる回答が多かった。これらの傾向から、事前調査における青の印象は“冷たさ”から来るものであり、赤は叱責する教師の姿の印象からの回答と思われる。また、白や黒といった無彩色は、色味を帯びず寒色以上に冷たさや冷淡さを感じさせる。そのような印象が、白や黒という回答に結びついたも

のと考えられる。

次に、生徒指導の思い出に対する回答については、筆者の想像以上に本来の生徒指導と異なっていた。もちろん、多岐にわたる生徒指導において、学生の記憶に残っているもの、学生が生徒指導と認識していたものによる回答であるため、偏りがあることも否めない。しかし、そのような状況を考慮しても驚かされる記述がいくつか見られた。特に、悪い思い出に示した事例は、学校教育法で禁止されている体罰や、アカハラ、セクハラなどに値するものもあった。本学学生の多くは高等学校を卒業してすぐに入学してくるため、この記憶はかなり最近の物である。つまり、今現在もこのような生徒指導が行われている可能性が高く、改善が強く望まれる事態である。

事後調査の結果から

事後調査の色のイメージの結果を見ると、事前調査と同じく青が最も多く、次に白、黄、オレンジ色、赤、黒と続いている。赤と黒が減少し、青・水色・薄い青・紺といった青系の色をイメージした学生が11人となった。イメージがどのように変化したかを見てみると、黒やグレーから青に変化した学生が3名、青から暖色に変化した学生が4人となった。黒やグレーの冷たいイメージから、さわやかさや透明性のある青に変化したことは、イメージが向上したものと考えられる。また、寒色から暖色に変化した結果は、冷たいイメージから暖かいイメージに変化した結果と考えられる。合わせて、生徒指導をオノマトペで表した結果を見てみると、ビシビシが最も多く、ビシバシッやギシギシ、ガンガンなどもあげられたが、事前調査には見られなかったフワフワやパワー、ホワッといったやわらかい言葉が出現した。この変化は、生徒指導とは厳しく叱りつけるだけでなく、生徒の将来を考え導いていくものであるという生徒指導への姿勢が伝わった結果だと考えられる。また、生徒指導する先生の印象の結果では、「厳しい」と「怖い」が多いことは変化がなかった。しかし、「生徒おおい」や「暖かい」「優しい」といった内容の回答が増えていた。また、厳しくもあり優しくもあるといった、2面性を表す回答が増えた。さらに、「大変」、「苦勞している」といった教師の仕事の大変さを表す言葉も出現した。事後調査では、実際に教師の立場になって考えた回答が増えたように感じた。

最後に、生徒指導に対して今はどのように感じるかの回答については、受講学生の4割は肯定的に変化していた。特に変化したという記述はなかった学生においても、生徒指導の大切さや難しさの理解や、教師の大変さを記述する学生が目立った。このような回答が多かったことは、生徒指導論の授業で伝えなかった内容を学生が理解してくれた結果だと考えられ、授業担当者としては非常にうれしい結果であった。

最後に

本調査の結果、生徒指導に対するイメージが授業受講後に変化した。このような結果は、授業によって生徒指導に対する正しい理解がなされた結果だけでなく、学生の多くが教育実習を経験したことにも影響されていると考えられる。理論として学ぶだけでなく、現場で教師を体験することにより、授業内容がより深く理解され、このような結果を得ることができたのであろう。ただし、教育実習だけで「生徒指導」に対するイメージが変化する

のは難しいと思われる。授業により、生徒指導に対する観点が根付き、実習によって体感したからこそ変化したのだと考えるべきである。だからこそ、大学で理論を学び、その理解をもって教育実習によって現場に立つことが大切であると、改めて実感した結果であった。

引用文献

- 栢野彰秀・玉井康之・赤田裕喜彦・西出勉・近江道郎・倉賀野志郎・山瀬一史・村上知子・小林宏明, 2011, 「学生の生徒指導認識の拡大と生徒指導力の向上一直接指導から日常的な接触活動への概念の拡大に関する質的・量的併合分析」, 北海道教育大学紀要 (教育科学編), 第62巻, 第1号, 23-38
- 伊谷寛・杉村健・藤田正, 1998, 「教育大学生がもつ生徒指導のイメージ」, 日本教育心理学会第40回総会発表論文集, 169